

平成 28 年 3 月 1 6 日

保護者様

京都市立岩倉南小学校
校 長 今村 ひろみ

平成27年度 後期学校アンケート結果報告

早いもので、6年生が晴れの門出を迎える日も間近となってまいりました。今年度も保護者・地域の皆様方よりご支援・ご協力をいただき、本当にありがとうございました。今後ともよろしくお願いいたします。

さて、後期の学校アンケート結果を報告させていただきます。今回も、前期同様「京都市学校評価支援システム」を活用し、同じ評価項目で冬季休業前にアンケートを実施しました。前期と比較しながら、今年度の取組を見直し、来年度に向けていかしていきたいと考えています。

保護者アンケートの分析結果の見方については、下記に再度掲載しておりますのでご覧ください。前期の結果報告、この後期結果報告の文書は、学校ホームページの「学校評価」の中でご覧いただけます。

3つの分野

(1) 確かな学力 (2) 豊かな心 (3) 健やかな体

● 学校評価支援システム（「ニーズ調査型」アンケート）を活用しての分析結果 （保護者アンケート 集計表）の見方

＊『ニーズ度』は『重要度』×（8－『実現度』）で計算され、最高値は「49」です。
『重要度』が高く、『実現度』が低いほど『ニーズ度』の値が高くなり学校の課題と考えます。
『ニーズ度』が「25」を超えるものは、重点課題に位置付けられ、網掛けで表示されますが、今回はありませんでした。

＊今回はニーズ度が低い状態にある順に質問項目を並べ替えています。

＊重要度・実現度の最高値は「7」です。7に近いほど、重要であり、実現もできていると判断します。

＊ニーズ度の値が低いほど良い状態にあると考えられます。

（ ）は前期の値

質 問 文

重要度

実現度

ニーズ度

子どもは、楽しく学校に通っている。(2)	6.8(6.9)	6(6.1)	13.8(13.1)
子どもは、友達と仲良くしている。(2)	6.7(6.7)	5.6(5.7)	16(15.4)
子どもは、学校やクラスのルール・約束事を守っている。(2)	6.7(6.7)	5.3(5.3)	18.2(18.1)
子どもに、人を大切にする気持ちが育っている。(2)	6.8(6.8)	5.2(5.1)	18.9(19.7)
子どもは、学校であったことを家庭で話している。(2)	6.4(6.4)	5(5)	19.3(19.2)

＊評価項目の後の（ ）は、3つの分野を表します。

＊「重要度」の特に高い値と「実現度」の特に低い値には、網掛けがしてあります。

●保護者アンケートの集計結果及び考察

()は前期の値

3つの分野	(1)確かな学力	(2)豊かな心	(3)健やかな体
-------	----------	---------	----------

質問項目	重要度	実現度	ニーズ度
子どもは、楽しく学校に通っている。(2)	6.8(6.6)	6.1(5.9)	13.9(13.1)
子どもは、友達と仲良くしている。(2)	6.8(6.8)	5.7(5.8)	15.6(17)
子どもは、学校やクラスのルール・約束事を守っている。(2)	6.7(6.6)	5.4(5.2)	17.4(18.5)
子どもに、人を大切にすることが育っている。(2)	6.4(6.7)	4.4(4.9)	17.9(20.8)
子どもは、登下校時や帰宅後も安全に気をつけている。(3)	6.8(6.9)	5.3(5.2)	18.4(19.3)
子どもは、友達のがんばりを認め、励まし、助け合える。(2)	6.7(6.7)	5.2(5.1)	18.8(19.4)
子どもは、授業が分かっている。(1)	6.8(6.8)	5.2(5.2)	19(19)
子どもは、学校であったことを家庭で話している。(2)	6.4(6.4)	5(5.2)	19.2(17.9)
子どもは、家庭で好き嫌いなく食べている。(3)	6.4(6.3)	5(5)	19.2(18.9)
子どもは、平日に家庭で、学年×15分間机に向かっている。(1)	5.9(5.9)	4.7(4.8)	19.5(18.9)
子どもは、外遊びなどでよく体を動かしている。(3)	6.5(6.6)	5(5.2)	19.5(18.5)
子どもは、自分のことは自分でしている。(3)	6.6(6.6)	5(4.9)	19.8(20.5)
子どもに、基礎的な学力がついている。(1)	6.9(6.8)	5.1(5)	20(20.4)
子どもに、早寝・早起き・朝ごはん等の習慣が身に付いている。(3)	6.7(6.7)	5(5.2)	20.1(18.8)
子どもは、人の話をしっかり聞ける。(1)	6.8(6.8)	4.8(4.7)	21.8(22.4)
子どもは、次の日の学習の準備をしている。(1)	6.4(6.3)	4.6(4.6)	21.8(21.4)
子どもは、進んで挨拶をしている。(2)	6.7(6.7)	4.7(5)	22.1(20.1)
子どもは、自分の考えをきちんと言える。(1)	6.7(6.7)	4.6(4.5)	22.8(23.5)
子どもは、丁寧な言葉づかいをしている。(2)	6.4(6.4)	4.4(4.4)	23(23)
子どもは、分かるまで学習に取り組んでいる。(1)	6.6(6.7)	4.5(4.5)	23.1(23.5)
子どもは、家庭でも読書をしている。(1)	6.2(6.1)	4.1(4.8)	24.2(23.8)

◎考察◎

- 保護者アンケートの結果から、学校の課題として捉えられるニーズ度が高い分野としては、今年度も「確かな学力」があげられます。「確かな学力」の分野の中でも、自分の考えを話すことや粘り強く学習に取り組むことに課題があるということは、「学習を通して習得するコミュニケーション力が実生活に生かせている」という実感がまだ弱いと考えられます。コミュニケーション力を育てる上では、まず相手の話を聞くことが大切です。「聞く→考える→表現する(話す、行動する等)」とつながると、生活に生きるコミュニケーション力となります。学校では、ハンドサインを活用した効果的な話し合い活動、友だちの意見を意識したノート作り、そしてこれらを丁寧に継続することが有効な取組であると考えています。発達段階にあった取組を推進し積み上げていくことで子どもの中に力が蓄積されていくと考えています。
- 「進んであいさつをしている。」「ていねいな言葉遣いをしている。」という項目は、学校や地域で挨拶運動等の地道な活動を継続していくことで成果が現れると考えています。まず意識をさせることから始まるのですが、京都はぐくみ憲章にも謳われておりますように、家庭・学校・地域での大人の手本が必要となってくると思われますので、学校でも教職員が進んで挨拶をするように心がけています。おうちでも、「おはよう」「おやすみ」「いただきます」「ごちそうさま」「ありがとう」「ごめんなさい」など、大人が意識して言葉を発するようにしていきましょう。
- 読書は、語彙が増える、集中力がつく、想像力・感受性が豊かになる、人の気持ちがわかるようになるなどの効果があると言われています。読書は人生を豊かにするものと考え、家庭でも子どもたちと一緒に本を手にとってみんなで読書を楽しんでみてはいかがでしょうか。大人も隙間の時間を使って、読書をするゆとりがあればよいですね。

●児童アンケートの集計結果

(低) 1～3年・6組

(高) 4～6年

() 内は、今年度前期の値

(1) 確かな学力		よく出来ている	大体出来ている	あまり出来ていない	出来ていない
1. 学校の授業はよくわかる。	低	54.2%(52.4)	42.9%(43.3)	2.6%(4)	0.2%(0.4)
	高	54.3%(55.9)	42.6%(37.1)	3.1%(6.5)	0%(0.5)
2. 学習したことが、身についている。	低	48.9%(42.2)	44.1%(48.6)	6.3%(7.6)	0.7%(1.6)
	高	38.1%(40.1)	53.5%(47.4)	8.1%(12.3)	0.3%(0.3)
3. 平日、家庭で学年×15分机に向かっている。	低	55.4%(58.3)	32.6%(27)	9.6%(12.3)	2.4%(2.4)
	高	39.5%(40.9)	28.9%(22.1)	24.4%(26.2)	7.3%(10.9)
4. 家でも読書をしている。	低	57.5%(53.6)	26.9%(28.6)	11.5%(14.7)	4.1%(3.2)
	高	36.2%(47)	28.4%(21.6)	25.6%(22.4)	9.8%(9)
5. 人の話をしっかり聞いている。	低	48.8%(42.9)	44.7%(46)	6.2%(9.1)	0.2%(2)
	高	38%(39.5)	51.3%(47.7)	10.2%(10.7)	0.6%(2.2)
6. 自分の考えをきちんと言える。	低	47.5%(38.1)	38.1%(43.3)	12.5%(14.7)	1.9%(4)
	高	29.1%(34.6)	41.2%(37.1)	25.8%(23.4)	3.9%(4.9)
7. わかるまであきらめずに学習に取り組んでいる。	低	61.5%(67.5)	32.4%(25.4)	5.1%(5.6)	1%(1.6)
	高	33.8%(34)	49.4%(46.8)	15.1%(17)	1.7%(2.2)
8. 家で、つぎの日の学習の準備をしている。	低	70.5%(73.8)	24.2%(18.7)	4.1%(6.3)	1.2%(1.2)
	高	65.4%(71)	20%(19.1)	11.3%(7.1)	3.4%(2.7)

* 学ぶ意欲・わかる喜び・達成感 *

◎考察◎

- ・「学習したことがよくわかる」「授業がよくわかる」という項目が前期と比べて改善される結果となりました。また「分かるまであきらめずに学習に取り組んでいる」という項目も改善されています。何をすれば目の前の児童に学力がつくのかをしっかりと考え、今後も児童が興味をもって、できる・わかる喜びが感じられるような学習をつみ重ねていくことを大切にしていきたいと考えます。また、児童の「分かった」という実感を励みにしながら学習内容や指導法をより向上させていく意識を教職員一人一人がもち続けて取り組んでいきます。
- ・家庭で机に向かうことができているという児童が増えてきています。家庭学習は、学力向上、自主学習の習慣から生まれる『計画を立てる力』や『見通しをもって取り組む力』などを主体的に学ぶ姿を育成することをねらいとしています。このようなねらいを意識した宿題や、興味をもって取り組める課題を提供したり、次の日の学習の予習をしたりしていくことで、「もっと知りたい」「学びたい」という意欲につながると考え、今後も内容を工夫して取り組めるよう指導していきたいと考えています。
- ・「人の話をしっかり聞いている」「自分の考えをきちんと言える」について、低学年は前期よりも改善されていますが、高学年は下降傾向を示しています。児童が実際に話したり聞いたりする場面が多くあり、自己評価する場では、他者とも比較しながら自分についてじっくりと見つめなおす機会があったのではないかと考えます。低学年については、「学習したことがよくわかる」「授業がよくわかる」という項目の結果が改善されたことから、学習に向かう意欲も高まり、「自分の考えを話したい」「友達の考えを聞きたい」と思う児童が増えたのではないかと考えます。「話す・聞く」力は基本的に積み上げていく力です。今後も、少人数や集団での効果的な話し合い活動や感想交流などの機会を大切にしていきたいと考えています。

(2) 豊かな心		よく出来ている	大体出来ている	あまり出来ていない	出来ていない
1. 学校に来るのが楽しい。	低	84.9%(70.2)	10.8%(21.8)	2.6%(4.8)	1.7%(3.2)
	高	62.2%(64.3)	29.7%(28.6)	5.3%(5.2)	2.8%(1.9)
2. 進んであいさつをしている。	低	67.9%(59)	28.3%(34.7)	2.9%(4.4)	1%(2)
	高	49.9%(53.1)	38.7%(38.4)	10.4%(6.8)	1.1%(1.6)
3. ていねいな言葉遣いをしている。	低	45.5%(40.9)	45.2%(47.6)	7.4%(7.9)	1.9%(3.6)
	高	25.8%(29.4)	55.7%(51.5)	15.7%(15.5)	2.8%(3.5)
4. 人を大切にしている。	低	77.4%(75)	20%(20.2)	2.2%(2.8)	0.5%(2)
	高	57.7%(61.6)	37%(33.5)	4.5%(4.1)	0.8%(0.8)
5. 友達と仲良くしている。	低	85.9%(79.4)	12.9%(15.9)	0.7%(3.2)	0.5%(1.6)
	高	75.9%(80.4)	21.6%(16.6)	1.4%(1.9)	1.1%(1.1)
6. 友達のがんばりをみとめ、はげまし、助け合っている。	低	66.9%(62.2)	29.7%(29.9)	2.9%(6.4)	0.5%(1.6)
	高	48.7%(52)	40.6%(36)	9.2%(10.1)	1.4%(1.9)
7. 学校やクラスのルール・約束事を守っている。	低	51.6%(56.7)	41.4%(38.1)	5.8%(4.4)	1.2%(0.8)
	高	43.3%(48.4)	49.4%(43.4)	6.2%(6.8)	1.1%(1.4)
8. 学校であったことを、家庭で話している。	低	61.1%(56.7)	26.7%(29.4)	9.6%(9.5)	2.6%(4.4)
	高	52.4%(57.8)	30.5%(22.9)	12%(14.2)	5%(5.2)

人をつなぐ・心をつなぐ・安心感

◎考察◎

- ・「学校に来るのが楽しい」「友達と仲良くしている」と感じている児童が多いのは、学校に来ることに意味を見出し、自分の居場所があると感じている児童が多いと捉えてよいのではないのでしょうか。友達がいるから学校は楽しい場であると感じられることは、大きな意味があり喜ばしいことです。しかし、少数の児童ではありますが、学校が楽しい場にはなっていない、学校が面白くないと感じていることは見逃せません。その実態を把握し、家庭とも連携してしっかり見守り、対処していく必要があると捉えています。
- ・「人を大切にしている」という項目について実現度が高くなりつつあります。児童が「人を大切にしている」と感じる裏には、自分が「人に大切にされている」という気持ち働いているのではないかと考えられます。このことは、教師や周りの大人との関わり方が児童に大きく影響すると思われるます。まずは、教師が一人一人の児童を大切にしている姿勢を授業や各活動を通して伝えていくことを怠ってはならないと考えます。
- ・「進んであいさつをしている」「ていねいな言葉遣いをしている」という項目は、低・高学年の差が異なるという点が顕著です。前期と比べ、低学年はコミュニケーションがとれるようになったためではないかと考えます。挨拶や人との適切なコミュニケーションは、意識的なものから無意識へと変わった時、本物になったと解釈できるのではないのでしょうか。時と場をわきまえた言葉遣いを、日頃から意識していき、習慣化を図っていく必要があります。
- ・「学校であったことを、家庭で話している」という項目に関しては、前期よりも改善が見られました。家庭でゆっくり話を聞いてもらうゆとりができたのではないかと考えます。また、自分のことを見てもらっている、大切にしてもらっているという安心感の表れでもあると思います。これは、今後もぜひ大切にしたいと思っています。

(3) 健やかな体		よく出来ている	大体出来ている	あまり出来ていない	出来ていない
1. 早寝早起き朝ご飯などの生活習慣が身についている。	低	55.2%(52.6)	34.9%(36.7)	7.4%(8.8)	2.5%(2)
	高	38.4%(41)	37.2%(35.5)	18.1%(17.2)	6.3%(6.3)
2. 外遊びなどで、よく体を動かしている	低	71.9%(68.8)	20.7%(21.6)	6.4%(6.8)	1%(2.8)
	高	51.6%(55.3)	25.5%(23.2)	18.1%(16.6)	4.9%(4.9)
3. 好き嫌いなく給食を食べている。	低	63.4%(57.8)	26%(30.1)	8.2%(10.4)	2.5%(1.6)
	高	64.2%(60.1)	22.3%(23.5)	10.9%(13.4)	2.6%(3)
4. 自分のことは自分でしている。	低	67.1%(67.2)	28.5%(26)	3.5%(5.6)	1%(1.2)
	高	50.9%(57.5)	42.8%(34.5)	5.2%(6.6)	1.1%(1.4)
5. 登下校時や帰宅後も安全に気を付けている。	低	77.7%(75.6)	19.3%(19.6)	2.5%(2.8)	0.5%(2)
	高	61.6%(65)	32.1%(27.3)	4%(5.5)	2.3%(2.2)

* 自分をつくる良い習慣 *

◎考察◎

- ・「健やかな体」は、「確かな学力」や「豊かな心」の基盤となるものであり、子どもたちが「元気に登校、機嫌よく下校」するためには、基本的生活習慣が重要なポイントとなってきます。子どもは、心身ともに毎日成長しています。その成長に欠かせないのが「睡眠」です。子どもたちの睡眠には、大人の睡眠以上に意義があります。それは、体の成長、学習したことの定着化、免疫力の向上、心の修復などの効果です。また、早寝早起きなど生活のサイクルがうまくいけば、朝食摂取・排便習慣なども良いサイクルとなります。ただ、小学生の基本的生活習慣は家庭に影響されることが多く、保護者の協力が不可欠です。もりもりカレンダー週間などを通して、子どもへのアプローチだけではなく、家庭への協力を呼びかけ、連携していくことが必要であると考えています。
- ・外遊びで体を動かすことについては、季節の変化が影響していることも考えられます。寒くなり、外へ行く子どもが減ってしまっているのかもしれませんが。寒い中でも、体を動かすことで、体がたくましくなったり、心がリフレッシュできたりすることを子どもたちにも伝え、外遊びを促していきたいと思います。また、体育科の学習や委員会の取組で、体を動かすことの楽しさを体感することが外遊びにもつながると考えられるので、学習や児童会活動を推進していきたいと思います。
- ・栄養教諭による食に関する指導の成果もあり、給食のおかずを残さず食べるようになってきています。実際、給食室からも「残菜が減ってきている」との報告があり、全校で「食べてみよう」と苦手な食材にも手をつける児童が増えているように思います。クラスみんなで食べると苦手なものでも食べられるということもあり、学校給食の意義を感じることができます。
- ・多くの子どもが「自分のことは自分でしている」と思っています。学校生活では、自分でしなければならないことがほとんどで、毎日の積み重ねが「自分でできる」という自信や自己肯定感につながっていくのではないかと考えます。ただ、自然とできるようになるのではなく、学校でも家庭でも大人が声をかけたり一緒にやってみたり、見守ったりすることで少しずつ自立していくのだと思います。学校と家庭が協力し、受け身ではなく積極的に自分から行動する土台を作っていきたいと思います。
- ・子どもたちが安全に過ごすためには、大人が見守るだけでなく危険を予知する力を身につけることも必要です。場面を想像することで、回避できる危険がたくさんあります。いろんな場面において、こんな時はどうする？など、子どもたちに考えさせる機会を与えることも大切ではないでしょうか。

《学校運営協議会で報告しました》

～学校運営協議会の皆様より、岩倉南小学校をより良い学校にするために～



- 顔見知りになると、あいさつする子も増えてくるが、言葉づかいが気になる。また、集団で歩いていると、話に夢中になり、あいさつをしなかったり周りを見ずに飛び出してきたりする子もいるので、気をつけてほしい。登下校中の落とし物も多いような気がする。
- 子どもたちに命の大切さを折に触れ教えているが、本当に「命」の大切さがわかっているだろうか。「命」とは、いろいろな意味があるし、いろいろな捉え方がある。これには家庭の考えや環境が影響していて、子どもたちの環境は、直接「死」に触れる機会が少ない。そう考えると、食育「命をいただく」や性に関する指導「命の学習」が大切である。いろんな人に支えられているということも子どもや保護者にわかってほしい。

子どもたちの様子を見守っていただいている学校運営協議会の皆様と意見交流をしました。岩倉南の子どもたちのことを考えて、大切に温かく見守っていただいていることを改めて感じています。子どもたちを中心に、地域と家庭と学校の連携をしっかりとしながら、今回の結果を踏まえて次年度の取組に活かしていきたいと思います。アンケートにご協力いただきありがとうございました。

～学校運営協議会でも話題に挙がりました「京都はぐくみ憲章」です。～



京都はぐくみ憲章

子どもたちの今と未来のため、私たち市民が地域ぐるみで実践しましょう！

わたくしたちは、

- 1 子どもの存在を尊重し、かけがえのない命を守ります。
- 1 子どもから信頼され、模範となる行動に努めます。
- 1 子どもを育む喜びを感じ、親も育ち学べる取組を進めます。
- 1 子どもが安らぎ育つ、家庭の生活習慣と家族の絆（きずな）を大切にします。
- 1 子どもを見守り、人と人が支え合う地域のつながりを広げます。
- 1 子どもを育む自然の恵みを大切にし、社会の環境づくりを優先します。

